

せんこうじわきこふんぐん

専光寺脇古墳群現地説明会資料

平成 18 年 9 月 2 日 (土)

島根県教育委員会

1. はじめに

島根県教育委員会(埋蔵文化財調査センター)は、国土交通省から委託を受けて益田道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。専光寺脇古墳群については、平成 18 年 5 月から発掘調査を実施し、墳丘(塚状の高まり)をもつ墓(1号墓)などを確認しました。本日はこれまでの発掘調査の成果を皆様に御覧いただきたいと思います。

なお、調査にあたりご理解とご協力をいただいております地元自治会の皆様をはじめ、関係の皆様方に心より厚くお礼申し上げます。

2. 発掘調査で判明したこと

専光寺脇古墳群は、益田市久城町の丘陵地帯から西側の平地に向かってのびる尾根の上(標高約 20~30m)に位置しています。

① 1号墓

長さ約 10mの四角形の墳丘をもつ墓です。道によって中央部が大きく削られていましたが、尾根筋の上下を溝で断ち切って区画し、墳丘を造っていることが分かりました。墳丘の東側と南側の斜面には、長さ 20~30cm大の川原石が貼り付けるように並べられており、西側の溝にも上から崩れ落ちたと思われる石が多数確認されました。このような石は貼石と呼ばれ、墳丘を飾るために置かれたと考えられます。なお、西側の溝は尾根筋を完全に断ち切っておらず、墳丘の北西が掘り残されていたことから、この部分が墓へ上の通路として利用された可能性も考えられます。

1号墓に伴う遺物は出土していないため、その時期は明らかではありませんが、その形態や貼石のあり方から、方形貼石墓と呼ばれる弥生時代の墳丘墓の可能性がります。

② その他の遺構・遺物

1号墓から約 15m西に行ったところで石列を伴う溝(SX01)が見つかりました。また、11基の穴(土坑)が確認されましたが、このうち一つの穴(SX02)の上から弥生時代中期(今から約 2100年前)の土器が出土しました。

このほか古墳時代後期(今から約 1500~1600年前)の土器(須恵器)も出土しました。